令和5年度施設関係者評価

令和6年3月28日

報告者氏名　　菊地　渉

評価者氏名　　百戸　澄江

全体評価

保護者への情報等を動画や連絡を配信し、コミュニケーションをとりやすく、また、共有できる保育環境を設定している。また、職員会議、意見の交換ができる環境、園内・外の研修、保育意欲が高まる職場環境はすばらしく、子供たちや保護者にとって安心、信頼できる保育園ですね。

個別評価

評価項目		実施状況	評価
教育課程指導	全体計画の立案、実践	４月計画作成、随時評価、３月評価反省及び改善事項の洗い出し	5.0
	年齢別指導計画	年案、月案、週案作成	4.8
	保育の記録	日々の保育記録（日誌） 保育ドキュメントの作成	5.0
保健管理	学校保健計画	看護師を中心に４月計画作成、随時評価、３月評価反省及び改善事項の洗い出し	4.8
安全管理	学校安全計画	幹部職員を中心に４月計画作成、随時評価、３月評価反省及び改善事項の洗い出し	4.5
特別支援教育	発達支援	心理士による指導助言実施	4.5
組織運営	園務分掌	職位・分掌に基づき遂行	4.5
	職員会議	リモート会議月２回（全職員）	4.8
	運営会議	対面で月１回（副主幹以上）	5.0
	給食会議	書面で意見交換	5.0
研修	園内研修	園内研修：公開保育（保育団体及び町内関係者）	4.8
	外部研修	職位職階に対応したオンライン研修実施	4.8
教育目標	根気強く取り組む子 思いやりがある子 挨拶ができる子	保育活動の中で具現化	5.0
情報提供	お知らせ	園だより・一斉メールの活用	5.0
	保育内容	ホームページに掲載（ブログ・ツイッター他）	4.8
保護者との連携	行事への招待、保育の公開	運動会参観（全員）、発表会（２歳以上）、 保育参観（０、１才）、保育ドキュメント掲示、 動画公開	4.8
地域住民との連携	行事への招待	運動会参観	5.0
子育て支援	子育て支援室	予約によるイベントの受け入れ、自由開放	4.8
預かり保育		１号認定児に対する　午後の預かりを実施	5.0
教育環境整備	教育環境整備	用務員、主幹保育教諭を中心に整備	4.5
食育	食育活動	調理担当を中心に食育計画作成、クッキング活動 野菜、コメ栽培	5.0
養護	健康支援	看護師を中心に検温、手指衛生の指導、体調管理 午睡チェック　０才：５分毎　１才：１０分毎	5.0
苦情解決		掲示あり　　記録簿あり	4.5
保幼小接続		保幼小接続会議への参加、公開保育及び公開授業による相互理解	5.0

その他

保育者の自己評価で、休憩時間について「子ども達との時間をもっと確保したい」という意見が散見しました。保育者の保育以外の労務についても意見を抽出し、機械の導入など、保育者の負担を減らし、保育者が今よりもっと保育に集中できる環境を整えられたらいいなと感じました。
0、1歳児午睡チェックのための向き判定機器導入はとても良いと思う。また、地域の方を運動会に招待することは、地域の方に園のことを理解してもらえる良い機会だと思いました。（子どもの声が騒音と言われる時代ですので・・・）
指導計画、自己評価シート、日々の保育記録がしっかり記載されており、良かったと思います。

保護者代表　　真中翼　　長尾紗也香　　忍田美幸

令和５年度 施設関係者評価

令和６年３月２８日（木）　午後５時より
参加者　：　理事１名　きりん組保護者代表３名

目的:保育者の自己評価、園の自己評価をもとに、現状に対する共通理解を図り、管理面、運営面等の改善協力を促進する。

１．　保育者の自己評価（2010 年度より実施）

使用書籍：【平成３０年度施行 幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく自己チェックリスト 100】（保育総合研究会監修）

○実施方法：年２回（８月・２月）実施　項目ごとに４段階評価

８月は前期の振り返りを行い、現時点での達成度や課題の掘り起こしを行った。
２月は年間を通した振り返りを行い、クラス運営、園全体の次年度への課題を明らかにした。

○集計方法：「十分している」及び「している」の数値を集計

＜自己評価集計結果＞　別紙資料参照

①保育関係（管理職・子育て支援担当含む）　100 項目

Ⅰ	園の基本姿勢について	94.3%	（前年 90.6%）
Ⅱ	教育保育要領理解と実践		
	総則	82.8%	（前年 85.4%）
	内容・配慮事項	88.9%	（前年 89.7%）
	健康安全	85.5%	（前年 87.4%）
	子育ての支援	87.5%	（前年 74.2%）
Ⅲ	園独自の取り組み	96.8%	（前年 73.6%）

②給食関係　給食担当専用設問　100 項目

食育
食事の提供
衛生管理

③支援　100 項目のうち該当部分のみ回答

＜考察＞

集計結果から、認定こども園の基本姿勢について共通理解ができていることが窺える。①－Ⅱについては子育ての支援を除いて昨年度よりも減少傾向だが、実際には不適切な保育の報道を見て自信を持てなくなっている部分が多い。主体性を育みつつ安全面への配慮をすること、遊び方の工夫や環境設定など個人の課題はそれぞれだが、次年度への期待や意欲を感じることができた。

クラス運営に関しては、その年齢なりの課題に沿って環境構成や一人一人への関わり方を工夫し、次の発達への道筋を見つけることができていた。「できた」「できない」に囚われがちだが、発達の可逆的な側面を受け止め、一歩一歩経験を積むことの重要性を再認識できるよう努めていきたい。

2．　園の自己評価

①保健衛生

・LEBER による体調管理を基本とし、発熱の基準を 37.5℃に設定する。園児が体調不良の際は健康支援室で看護師が様子を見た後、回復するようならクラスに戻るなど柔軟に対応していった。
・節目ごとに看護師による手洗い指導を実施した。また、集会でも咳エチケットやうがいや手洗いの大切さについて呼びかけ、園児が衛生を意識できるようにした。
・全国的にインフルエンザや新型コロナウイルス感染症、胃腸炎が猛威を振るっており、園内でも数名の罹患があったが、クラス内などで大きく広がることなく収束した。
・保健関係の情報発信として年４回の保健だよりを発行。その他、境町からの注意喚起や園内の体調不良者の状況に応じて、その都度マチコミを通して行った。

②保護者とのコミュニケーション、情報発信

・前年度の保護者アンケートに基づき、職員間で話し合いを行った。特に行事については、ただ新型コロナウイルス感染症発生以前に戻すのではなく、子どもと保護者にとって良かった部分を考慮し、新たな展開方法を模索していった。アンケートの集計回答は４月に園内で掲示する。
・運営する HP を法人、保護者専用、子育て支援、リクルートの４本体制とし、暗号通信方式（HTTPS 化）を行う。保護者専用 HP では園だよりのダウンロード機能を実装したものの、同時運用に難航した。
・情報の伝わりやすさとレイアウトを重視した園だよりのデザインを検討し、紙面の同じ場所で同じコンセプトの発信をするよう努めた。
・ドキュメントや動画配信により、園での様子について保護者との共有を行った。育ちの側面についてもっと発信できればよかった。
・登降園の際の情報交換をより深めるため、また、保育室内の様子を感じてもらいやすいよう、保護者の園内への立ち入りを再開した。
・園からの公式発信を園だより（毎月）とマチコミ（随時）の二本体制にし、情報が滞ることを避けるよう努めた。マチコミの発信数は 142 回、動画のパスワード発信は 56 回であった。

③園組織のマネジメントと保育の質向上

・園長が交代となったが、昨年に引き続きスキルアップとやりがいの好循環を目指していった。
具体的には、学級運営に関わる職務内容は同一労働だが、情報発信の方法などは個々の得意分野を尊重し、発揮し合うことを許容する組織作りに努めた。
・月２回の職員会議と月１回の給食会議は、全クラスが園児から離れることなく参加できるようリモートや書面で実施し、運営会議は活発な意見交換を促すため、少人数での対面方式とした。
・園内研修は看護師による新人職員への保健研修や救急救命講習を実施し、外部研修では不適切な保育にならないための考え方や対応について、また、各職員が園務分掌に対応した分野やこれから目指したい内容を中心に、茨城県で認定されているキャリアアップ研修に参加した。
・全職員が年２回の園長との１on１面談を実施した。
・子どものやりたいこと、子どもとやってみたいことを各保育者が大まかに立案し、子ども達との話し合いの中で具体化して活動を展開していった。

＜総括と今後の展望＞

新型コロナウイルス感染症が５類に移行し、社会生活が戻りつつある中、コロナ禍で得た学びを活かすべく行事のあり方や発信の方法を模索していった。様々な ICT 機器を活用して保護者と子どもの育ちの共有を図っているが、職員個人の得手不得手によって発信量に差が生じていることは課題の一つだ。今後も１on１面談を通し、悩みを解消しながら楽しんで保育に向かえるような状況を作っていきたい。

来年度からは連絡帳を含め、発信の仕方が変わる見込みだ。親子旅行やお祭りなど、今年度は見送った行事も実施する予定なので、これからも利用者の声に耳を傾けながら新たな形を模索していきたい。